

【エクアドル内政・外交：2014年5月】

1. 内政

(1) 閣僚交代

12日、コリア大統領は、同日付大統領令第317号により、新たに経済社会参画大臣を任命した。

ア 辞任した閣僚

ドリス・ソリス経済社会参画大臣

イ 新閣僚

ベアトリス・トラ経済社会参画大臣(元政策調整大臣)

(2) ヤスニITT鉱区の開発を問う国民投票を巡る動き

ア ヤスニITT鉱区の開発を問う国民投票を実施すべく、4月12日、ヤスニ地区の開発に反対する市民団体YASUNIDOSが有権者登録数の5%(583,324名)に相当する署名を集め国家選挙審議会(CNE)に提出したが、7日、パレデスCNE委員長は、CNEが署名の有効性を調査したところ、提出された署名のうち239,342名の署名は不正であったと発表し、YASUNIDOSを批判した。

イ 一方、9日、YASUNIDOSのベルメオ広報担当は、報道関係者に対し、CNEが署名を確認する際、YASUNIDOSが提出した有効な署名があった用紙とCNEが偽造した用紙をすり替え、YASUNIDOSの集めた署名に不正があったとするなど、事実を歪曲する行為があったと主張した。

(3) 施政報告演説

ア 24日、コリア大統領は国会議事堂本会議場に於いて、第三次政権1年目を振り返る施政報告演説を行った。

イ 国会議事堂には閣僚、国会議員、政府関係者、外交団、AP支持者などが集まった。

ウ コリア大統領は1時間以上にわたり貧困削減や医療、教育への投資の成果等の施政報告演説を行った。

エ 大統領演説後、グラス副大統領が生産マトリクス強化の進展状況について約20分演説し、その後リベラ経済政策調整大臣、ポベダ戦略部門調整大臣、エスピノサ生産・雇用・競争性調整大臣、コルデロ治安調整大臣、バカ社会開発調整大臣、ロング知識・人的能力調整大臣パティーニョ外相等が各々10分ずつ各分野の報告を行った。

オ 最後に、再びコリア大統領が演台に立ち、メディア、地方政府の一部、国内外の右派、極左翼の陰謀によってエクアドルにおいて「静かな」クーデターが企てられつつあるとして、選挙で選出される公職の三選禁止規定の撤廃を支持することに至ったと述べた。

(4) マウア元大統領に対する実刑判決

ア 29日、エクアドル最高裁判所は、1999年の金融危機に際し違法性があったとして、ハミル・マウア元大統領(任期:1998年-2000年、大統領辞任後は米国に在住)に対し、12年の実刑判決を下した。

イ スアレス国家警察長官は、現在インターポールから、マウア元大統領の居場所についての公式な報告を待っているところであり、その後、外務省を通じて、米国に対し身柄引き渡しを求めることになるとの見解を示した。

ウ 一方、マウア元大統領は、「過去14年間、本件は、政治や選挙のために都合よく扱われてきた。ヴィンティミージャ裁判官による判決は法に基づくものではなく、政治的動機に基づくものである」と述べた。

エ マウア元大統領の弁護士は、ヴィンティミージャ裁判官が与党AP党員であること、同裁判官が本判決内容を会見で発表したこと、訴追事由である銀行資金横領の量刑は12年ではなくて最大8年であること等、刑事・刑事訴訟法281条に則り最高裁判所側に対し異議申し立てを行った。

2. 外交

(1) コレア大統領のチリ訪問

ア 13日から14日まで、コレア大統領は、チリを公式訪問しバチェレ・チリ大統領と会談した。

イ バチェレ・チリ大統領との会談後、コレア大統領は、「今回の訪問では特に国防、鉱物開発、天然資源の開発分野におけるチリの協力について話し合い、非常に有益であった、またラテンアメリカにおける地域統合についても意見交換を行った」と述べた。

ウ 一方、バチェレ・チリ大統領は「今年11月に、エクアドルにおいて第4回チリ・エクアドル二国間会合を開催することを決定した。またUNASURの強化、文化、教育、化学、技術、スポーツ、医療、観光、司法、防衛、安全、環境保全、鉱物、資源エネルギーの分野において二国間関係を強化することに一致した」と述べた。

エ なお今次訪問にはパティエーニョ外務大臣、リバデネイラ貿易大臣、ポベダ戦略部門調整大臣、アルボルノス電力・再生可能エネルギー大臣、エスピノサ国防大臣、セラーノ内務大臣、コルネホ国家危機管理庁長官等が同行した。

(2) 米州地域防災プラットフォーム会議の開催

27日から29日までグアヤキルで、第4回米州地域防災プラットフォーム会議が開催され、ラテンアメリカ各国の防災責任者が集まり、災害によるリスクを軽減するための方策について議論を深めた。日本からは亀岡内閣府大臣政務官が出席した。

(3) グラス副大統領のウルグアイ訪問

ア 29日、グラス副大統領は、ウルグアイを訪問し、ムヒカ・ウルグアイ大統領と会談し、障害者政策に関するウルグアイ・エクアドル二国間合意に署名した。

イ ムヒカ大統領との会談では、エクアドル政府が進めている南米における電力供給ネットワークの統合、生産マトリクスの強化について話し合われ、両国の協力関係を引き続き強化していくことで一致した。

ウ 会談後、グラス副大統領は、「エクアドル政府は、アンデス・グループ諸国との間で電力の相互供給ネットワーク構築を進めており、今後は同様のプランを南米諸国連合(UNASUR)諸国との間でも推進していきたい。また、農牧業を含む輸出向け国内産業の育成を進めているエクアドルにとって、畜産および食肉加工分野におけるウルグアイの知見は非常に重要である。今回のウルグアイ訪問では、エクアドルにおける障害者政策の経験をウルグアイと共有することが可能となったため、非常に重要なものであった」と述べた。

エ 同日、グラス副大統領は、副大統領府の障害対応局(Secretaria Tecnica de Discapacidades)とウルグアイにおける「国家障害対応プログラム(Programa Nacional de Discapacidad)」の協力に係る障害者政策に関する二国間合意に署名した。本合意により、両国間で障害者政策の分野での経験を共有し、顧問、研修、機材供与の面で相互交流を行う共同プログラム及びプロジェクトを立ち上げ、両国間の協力を活発化させることとなった。